

平成25年度

# 教育予算要望

平成24年 7月11日



教育環境の改善とPTA活動のさらなる充実を図るため、市内小・中・特別支援学校より意見をもちに教育問題委員会にて討議し、理事会の承認を経て、平成

25年度教育予算要望を作成いたしました。福岡市PTA協議会日高政治会長より福岡市教育委員会酒井龍彦教育長に要望いたしました内容を二部紹介いたします。

- 1 単位PTAがより一層の充実した活動を展開していくための支援施策を図りたい。
- 2 学校教育内容のより一層の充実を図りたい。
- 3 児童生徒へのよりきめ細かな指導を実現するために、国や県に対して、教職員定数の増員にむけた働きかけの強化をお願いしたい。
- 4 学校教育の諸問題解決のための措置を図りたい。
- 5 さらに学力向上のため、チームティーチングや個別指導の一層の推進をお願いしたい。
- 6 そのために、福岡市独自で可能な教職員の増員に取り組んでいただきたい。
- 7 とりわけ、学習支援、指導方法工夫改善、専科教員の増員を早急にお願いたい。
- 8 読書教育の推進・充実を図りたい。
- 9 全学校に学校司書を一名早急に配置していただきたい。
- 10 食育推進を更に進めていただきたい。



**発行所**  
福岡市中央区天神1丁目10-1  
市庁舎北別館  
福岡市PTA協議会

**発行人**  
会長 日高政治  
広報委員会

**福岡市PTA協議会**  
ホームページ  
<http://www.fukuokacity-pta.jp>  
福岡市PTA

印刷(株)ミックスコーポレーション

- 1 全学校に栄養教諭又は学校栄養職員を配置をお願いしたい。
- 2 学校教育環境整備充実を図りたい。
- 3 全教室に冷暖房の設置を早急にしていただきたい。
- 4 通学路のバス路線の縮小廃止については、校外活動も含めた学習活動に支障をきたさないよう、各交通事業者への働きかけや、その代替路線の確保などをお願いしたい。
- 5 特別支援教育条件整備のための施策の充実を図りたい。
- 6 特別支援学級の全校設置並びに特別支援学級における教職員定数の改善(最低五人に二名の配置)の早期実現を推進するための働きかけを強化していただきたい。
- 7 特別支援学級に在籍する生徒の高等学校進学に対する積極的な支援をお願いしたい。
- 8 いじめ・不登校(保健室登校を含む)解消及び健全育成・非行防止のためのさらなる施策を図りたい。
- 9 スクールカウンセラーの小・中学校全校配置と、これに必要な設備の完備をお願いしたい。
- 10 児童・生徒の安全確保及び危機管理のための施策をより充実させたい。
- 11 防犯対策として、全学校にインターホン・センサーライトなどの設置を早急にお願いたい。
- 12 登下校時の巡回数を増やすなどのパトロールの強化並びに夜間・休日及び平日の昼間においても、警備会社による定期的な巡回警備などをお願いしたい。
- 13 その他
- 14 学校行事・部活動・総合的な学習の時間などの学校生活全般における第三者に対する賠償責任保険への全市規模での加入をお願いしたい。

平成24年度 **特別支援教育啓発研修会**

演題 「自閉症の僕が二十歳になって思うこと」  
「わが子の可能性を信じて」

平成24年10月5日 福岡市民会館

障がい児および特別支援教育への正しい認識と理解を深めるために特別支援教育啓発研修会が行われ、重度の自閉症で、二十歳になる東田直樹さんと、そのお母様の東田美紀さんをお招きしてご講演いただきました。

人との会話が困難な直樹さんのために美紀さんは、試行錯誤の結果、パソコンのキーボードと同じ配列でアルファベットを画用紙に書いた文字盤を考案。現在では、パソコンおよび文字盤ポインティングを使用し、援助なしでのコミュニケーションが可能となり「自閉症の僕が飛び

跳ねる理由」など十四冊の本を執筆し、作家として活躍中です。会話は苦手であるけれども、心のすべてを表現するツールを得て、幼い頃から現在までのその都度の思いを力強く精一杯の声と言葉でお話くださいました。

その言葉には、みんなと変わりのない、悩み、苦しみ、喜びなど様々な心の叫びがありました。幼稚園の時「会話ができない、集団行動ができない、人と違う」という自分に気づいたことが障がいと向き合うきっかけになり、年齢を重ねるごとにその苦しみは深くなられたそうです。

人が当たり前に行っていることは、自閉症の直樹さんにとっては至難であり、そのことで疲れ果て孤独になり、しかし、ひとりの世界が唯一安心できる場所でした。そんな直樹さんにとってお母様が見つけてくれた表現手段は、夢のようなでき事であり、最初に伝えたかった言葉は「ごめんなさい」「ありがとう」だったそうです。

そして「この障がいの代弁者として、その人

の存在そのものを肯定してあげること、それがその人の自己肯定感につながり前向きにさせる」と語られました。

直樹さんは今「大勢の人前で思いを伝えたり、家族のささやかな日常を感じたりすることに幸せを感じている」と締めくくられました。

次にお母様の美紀さんが「大きくなった直樹さんを今でも愛しいと感じています。障がいを知った時は辛かったけれども、多くの人に支えられてきたことに感謝しています。ひとりひとりが役割をもって生まれてきたことを自分のこととして考えてくださったらと願っています」と話されました。



**Column** **生まれた日II**

福岡市立筑紫丘小学校  
校長 横手 菜穂子

行事や授業研究も一段落し、その日は先生たちとグラスを傾けながら楽しく懇親を深めていました。八時をちよつと回ったところでしよつか、突然、進行役の先生が算数で使う時計をもってみんなの前に現れました。そして、時計の針をくるくると回し始めたのです。長短の針がちよつと十二をさした時、斉にハッピーバースデーの合唱となりました。次の日は、私の誕生日だったので。

「校長先生、明日はお母さんに、ありがとうを言う日ですよ」と笑顔で渡された花束は、優しく甘い香りがありました。私は不覚にもこみあげる涙を押さえることができませんでした。

時間に追われるような日々を過ごしている先生たちが、私に気付かれないようにこっそり準備してくださったのは、愛嬌たっぷりの苺のケーキと可憐な花束でした。私は先生たちに実に多くのことを望んできました。子どもたちのためと自分に言い聞かせながら、時には厳しいことも言っていました。そんな私のためにこんな豊かな時間を作ってくださいました。幸せはこのように突然降りてくるということを知りました。

その夜、私は少し照れながらも、「お母さん、私を生んでくれてありがとうとつごいしました」と、先生たちからいただいた大切な大切な花束を手渡しました。

幸せそうなお母さんの笑顔とその手にしっかりと握られた「花束」の写真は私の宝物となりました。写真を見るたびに、校長であることの喜びをかみしめています。そして、大人が次の世代に伝えていく「心」の形と重さを感じています。

子どもとメディアのよい関係づくり  
「福岡市PTA協議会」「福岡市教育委員会」共催  
**早寝・早起き・朝ごはん講演会**  
平成24年7月10日 少年科学文化会館



久留米大学医学部  
神経精神医学講座教授  
内村直尚氏

「子どもの成長と睡眠」よりよい睡眠が身体と脳と心を育てる。をテーマに久留米大学医学部神経精神医学講座教授 内村直尚氏にご講演いただきました。

■睡眠のゴールデンタイム

子どもには「眠る力」があり、その力は40歳を過ぎると落ち始め65歳を過ぎるとなかなか眠れなくなってくる。睡眠のゴールデンタイムは22時～翌3時です。早く寝ると深い睡眠がたくさんとなるので体の成長、脳の発達、心の安定につながります。研究では勉強しすぎて寝た場合と勉強後テレビやゲーム等で寝ずにいた場合とでは、すぐに寝た子どもの方が記憶量が多いことが発表されています。勉強をきちんと脳に固定させると同時に休息させるためには十分な睡眠は必要不可欠です。

■寝ぬ子は太る

現在、小学生の約10%は肥満といわれています。このことにも睡眠が関係しており睡眠不足状態が続くと代謝が悪くなり太りやすくなります。大人でも睡眠不足になると高血圧になりやすいとの結果が出ています。十分な睡眠は免疫力を増加させるので病気予防のためにも大切です。

■生体リズムをリセット

一般的に人の体には生体リズムが備わっていて、起きてすぐに朝の光を浴びると生体リズムがリセットされて二日の生活リズムが整い早寝につながります。特に子どもはリズムが乱れやすいので朝日を浴びて朝食をきちんと食べ、朝型リズムにしておくことが大切です。それが今後の受験にも影響していきます。

「睡眠を制する者は受験を制する、人生を制するようになる。」

子どもが夜ぐっすり寝るための生活リズム十か条

- ① 朝定の時刻(7時まで)に起きて光を浴びる
  - ② 朝食を規則正しくとる
  - ③ 昼間の活動量を増やす
  - ④ 夕食は規則正しく、入床2〜3時間前にはすませる
  - ⑤ 夜8時以降はコンビニなど明るい所に外出しない
  - ⑥ 入浴は入床1〜2時間前に行う
  - ⑦ テレビ・ゲームや携帯メールは入床1時間前にはしない
  - ⑧ 寝室は暗くする(入床30分前から暗くする)
  - ⑨ 規則正しく午後10時から11時就学前児童は9時)には入床する
  - ⑩ 健康を保つために必要な睡眠時間を確保する
- 就学前10時間以上  
○小学生8〜9時間以上  
○中学生7時間以上
- たくさんデータとともに時には笑いを交えながら、わかりやすくお話をしてくださいました。睡眠の大切さを再確認できた講演会でした。

第68回 指定都市PTA情報交換会

名古屋大会 平成24年9月13日(分科会)・14日(全体会)

《大会テーマ》～日本のど真ん中でPTAの環をひろげよう!～



この大会は、政令指定都市のうち、13のPTA協議会から役員、教育委員会関係者が集まり、指定都市相互の共通性や相違点を理解し、各都市の今後のPTA活動の充実を図るために行われています。

分科会は、「組織・運営」「研修活動」「組織連携」「広報」に分かれて、名古屋市の提言をもとに、情報交換を行いました。

全体会は、各分科会の報告会の後、『笑いがすべてを変える』という演題で、NPO法人 日本ホスピタル・クラウン(=道化師)協会 理事長 大棟 耕介氏の基調講演が行われました。「おもしろいから笑うのではなく笑っているからおもしろくなる、お母さんが笑っていないと子どもも笑えませんよ!」と語られました。

第7回 Stop・ザ・非行 ふくおか

福岡県大会

平成24年8月4日 都久志会館ホール



福岡県PTA連合会・北九州市PTA協議会・福岡市PTA協議会の三P協連絡協議会主催で開催されました。

福岡県中央少年サポートセンターの金田律子氏からの基調報告では、街頭指導、非行少年立ち直り支援など多くの事例から、初期非行に多い、夜遊び・喫煙・万引き・シンナー・薬物は親に向けての無言のSOSであり、早期発見できたことを

前向きにとらえ、「立ち直りを親が」「親を地域が」支えることの大切さを語られました。

北九州ホームレス支援機構理事長の奥田知志氏による「絆が希望を作り出すーホームレス支援の現場から見える排除される人々、排除される子どもたち」の講演では「無縁社会」と呼ばれる深刻な現実の中、長年ホームレス支援の現場で、ひとりひとりと心の交流を続けながら血の通った「絆」を回復していく過程を語られました。

奥田氏と立花高等学校 校長 齋藤真人氏の対談では『「いいんだよ」は魔法のことば』をテーマに「大人たちが楽しんで!」をキーワードとし、大人が子どもたちに対して「おおらか」であることの大切さを説かれました。

子どもたちの生活に関する責任の多くは保護者や家庭にあり、非行の防止に向けて家庭・地域・学校における取組みを時代に合わせて再構築していく必要があると考えさせられました。

第57回 九州ブロックPTA 研究大会 佐賀大会

平成24年10月27日(分科会)・28日(全体会)

《スローガン》～語りあい 認めあい 育てあい 愛ことばは「子育ていちばん!」～



第7分科会(広報活動)では、平成22年に全国PTA広報紙コンクール「日本教育新聞社長賞」を受賞した城南小学校が提言し、PTA会長茂島信一氏は「親も日々成長できるよう、その“親育て”のさまざまな“きっかけ”を情報発信できるような広報誌を作っていきたい」と語られました。

第9分科会(教育問題)では、地域に密着したPTA活動を行っている福岡中学校が提言し、PTA副会長平井輝人氏の発表に助言者からも「地域で育てた子どもがやがてまた地域に帰ってくるようにと地域ぐるみで育てているところが素晴らしい」とコメントをいただきました。

全体会は、はじめて佐賀市、唐津市、武雄市の三元中継で行われ、難しい中継を行った佐賀県PTA連合会の連携の素晴らしさを感じた大会となりました。



第60回 日本PTA 全国研究大会 京都大会

平成24年 8月24日(分科会)・25日(全体会)

《スローガン》いのち ところ ゆめ ～伝えよう つなげよう 育もう～



第4分科会 ディスカッションの様子

「親子の絆」「学校との連携」「地域とのつながりの大切さ」などをテーマに8200人が論議を交わしました。

第4分科会「広報活動」では初めての試みで、全員参加型のテーブルディスカッションが取り入れられ、どのテーブルも盛んな討議が行

われました。

全体会は、大会宣言に続き、記念講演にシンガーソングライターの加藤登紀子氏を迎え、幾度も被災地を訪問し歌を通して復興支援をしている様子を、映像と音楽、被災地の子どもたちの作文や詩の朗読などでつづり、参加者の中には涙を拭く姿が多く見られました。

### 小学校PTA 会長研修会

平成24年10月17日  
ソラリア西鉄ホテル

平成24年度小学校PTA会長研修会が、約140名の参加で開催されました。

第一部の研修会は「学校危機管理とPTAの連携」「いじめ対策について」「会長として疑問におもつこと知りたいこと」の三つのテーマでテーブルディスカッションが行われました。共通して話されていたことは、校長と会長が普段から積極的にコミュニケーションを取り合い、常に連携を図ることが大切だということでした。

会長としての役割を再確認し、今後のPTA活動に参考に



なる意見が多く、白熱したディスカッションになりました。

第二部の情報交換会は和やかな雰囲気の中、会長ならではの疑問や悩み、お互いの学校のPTA活動の話、久しぶりの再会もあり、活発な意見交換や歓談が行われ、有意義な時間を過ごすことができました。

### 中学校・特別支援学校 PTA会長研修会

平成24年9月26日  
ソラリア西鉄ホテル

中学校・特別支援学校PTA会長研修会が開かれ、約90人が学校を取り巻く課題について意見交換をしました。

「部活動」「いじめ・人権」「地域連携」のテーマでテーブルディスカッションをし、「部活動」のテーマでは「先生に任せきりにするのではなく、保護者が顧問の先生をフォローしながら、積極的に関わりをもつ」と報告がありました。



域がよく見て、お互いに情報を出し合っていく」という意見が出ました。

福岡市立中学校校長会の吉浦義友会長は、「活発な議論を評価しPTAをはじめ、組織運営は駅伝のようなものです。次の代の人が走りやすいように、繋いでいく気持ちを忘れないでください」と講評されました。

### 担当副会長交流会

平成24年7月12日  
ソラリア西鉄ホテル

小・中・特別支援学校の担当副会長約200名が集まり、交流会が開催されました。

福岡市PTA協議会前会長の足田敏明氏より「担当副会長として」というテーマで「担当副会長は、単位PTAと福岡市PTA協議会をつなぐ重要な役割があります。子どもたちの未来のために、協力しあって楽しく活動してください。」とお話がありました。

講話では、福岡市教育委員会指導部学校指導課長 池田二司氏より「生徒指導の現状と課題」についてお話があり、暴力行為、不登校、遊び・非行型不登校生徒の居場所作り、いじめ、体罰に対するの取り組みを教えてください



ました。

テーブルディスカッションでは、和やかな雰囲気の中にも活発な意見や情報交換が行われ、担当副会長としての立場、活動のあり方を再確認した時間となりました。

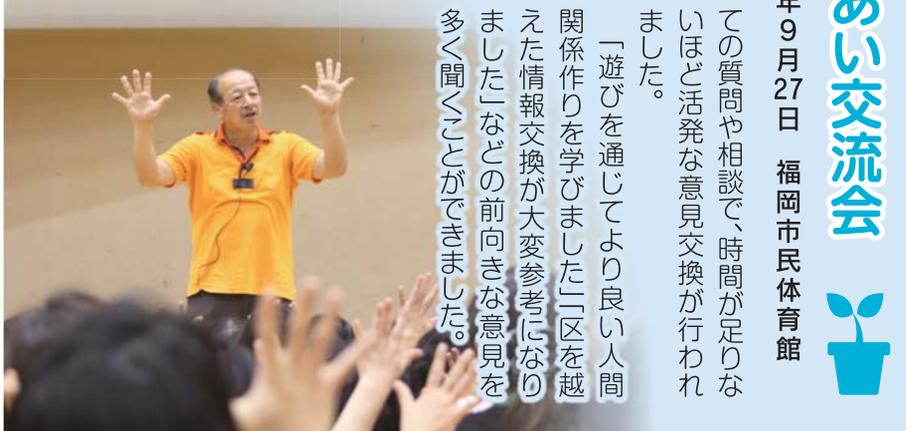
### 担当副会長ふれあい交流会

平成24年9月27日  
福岡市民体育館

平成24年度担当副会長ふれあい交流会が小・中・特別支援学校の各担当副会長約140名の参加で開催されました。

前半は九州あそびの研究所所長 中島宏氏を講師にお迎えし、ゲームやレクリエーションを通して楽しく仲間作りをする方法や信頼関係を深めることができるコミュニケーションのとり方など、明るいつPTA活動をしていくためのたくさんのヒントやアドバイスをいただきました。

後半は7月の担当副会長交流会と同じグループに分かれてディスカッションがありました。単位PTAの特色ある取り組みや、学校・地域との関わりについ



この質問や相談で、時間が足りないほど活発な意見交換が行われました。

「遊びを通じてより良い人間関係作りを学びました」「区を越えた情報交換が大変参考になりました」などの前向きな意見を多く聞くことができました。

### いじめ防止出前講座

#### 『スマートフォン／SNS時代の 「コミュニケーション」』

スマートフォン、ソーシャルネットワークのリスクと対応

実施校 長丘中学校 9月26日／百道中学校 10月2日／当仁中学校 11月8日  
オフィスラバーリング代表 置鮎正則氏



急速に普及しているスマートフォンとSNS（モバ

ゲー・グリー・アメブロなど）により、コミュニケーションは大きく変化しており、正しいインターネット「コミュニケーションを理

解していないためトラブルやいじめが数多く起きています。スマートフォンは通信機能のついた高性能端末であり、子どもたちは当たり前のように使いこな

最後は置鮎氏は「SNSのトラブルを防ぐためには、プライバシーと法律を守る意識、相手への思いやり、正しい情報対応を教え、責任のあるコミュニケーションができるよう、繰り返し指導することが大切です。また、自分には関係ないとの無関心は禁物です」と締めくくられました。

心豊かな子どもを育てるために  
「いのちを伝える」ことは今日から始まる

福岡県いのちを守る会会長 むなかた助産院院長 賀久はつ先生

実施校 下山門小学校 10月11日／原小学校 10月17日／飯原小学校 10月23日

#### 下山門小学校講演会にて



会場には、賀久先生が出産に立ち会った児童(中央)もいて、うれしい再会となりました。

幼児期・思春期に愛情を注ぐ子育て、そしてこれまでの実体験を大変興味深い内容でお話くださいました。

「子どもはつくるもの」ではなく「授かるもの」で、子宮に宿った瞬間から母親が喜びを伝え、愛情を受けて育つこと心穏やかで優しい子に成長します。この愛情は、やがてその子どもが子育てをする立場になった時の糧になります。母性とは次の世代を育みつないでいく力なのです。

賀久先生の慈愛に満ちた優しい語り口で、終始穏やかな雰囲気の中、講演会は終了しました。

60余年もの永きに渡り、4千人以上の命の誕生に立ち会い命の尊厳を見守り続けてこられた賀久先生は、女性として命を育むための心と体づくり・胎児期・

# 指導者研修 ～東日本大震災被災地の今を訪ねて～

## 仙台市PTA協議会の協力を得て被災地を視察

平成24年11月10・11日

福岡よりも少し肌寒い仙台空港に降り立ちまわりを見渡すと、広大で見晴らしの良い景色が広がっていました。視察には札幌市PTA協議会・京都市PTA連絡協議会も参加し、仙台市PTA協議会 内田幸雄会長連帯のバスで、まず女川市へと向かいました。海岸線の防風林は多くの木が津波でなぎ倒され、焼却場では休むことなくがれき処理が行われており、がれきの中からはまだ人体の一部が見つかるこのことでした。

次に向かったのは、現在立入禁止になっている仙台市立荒浜小学校ですが、校長先生の配慮で校内に入れていただき、地震と津波の爪痕を目の当たりにしました。

震災時、学校に残っていた児童は4階に避難し無事でしたが、すでに下校していた1年生のひとりも津波で犠牲になりました。地域の方々に誘導していた校長先生、教頭先生も津波が校舎



1階部分が壊れている体育館

の2階まで迫ってきたので走って3階に避難し、近隣の家が流されるのを見てあらためて災害の大きさを認識

学校では、毛布など避難所として必要なものを体育館の倉庫に保管していましたが、防災訓練の際に「津波を想定し高い所に保管する方が良さ」という判断をし、校舎4階に移しておい

たので使用できたそうです。当日は仙台としては珍しく吹雪でかなり寒く、子どもたちが真っ暗な校舎で余震の続く中救助を待ったこと、夜中屋上からひとりひとりへリコプターでつり上げられ救助されたことを考えると、訪問したみんなが声をな

行われている状態です。学校は隣の学校校舎を借り再開されていますが、川村校長先生は「保護者の方たちにまだ余裕はありません。修学旅行費、卒業アルバム代、教材費等、すべて義援金でまかなわせてもらっていますので、全国の皆様には本当にお世話になっています。PTA活動も復活とまではいきませんが、PTA会長とイベントを企画し、子どもたちが楽しそうに笑ってくれたのがうれしかったです」とおっしゃっていました。現在、将来に不安を感じている子どもたちが多く、震災の話をしなくなった、震災の夢を見なくなったという子が3割、反対にいまだに震災の夢をみるという子も同じくらいいるそうです。仮設住宅でも、将来に希望もなく働く気力を無くした大人が増えていると聞き、本当に心が痛みました。

今回の視察研修では東日本大震災の被害の大きさ、その後の復興の遅れを現実に見て、まだまだ全国からの支援の必要性を感じました。月日が経つと人の気持ちも風化してしまいますが、完全に復活する日まで、私たちは被災地の人たちにエールを送り続けていきたいと思



復興支援バザーの様子

11日は、仙台市PTA協議会主催「仙台市PTAフェスティバル」に参加しました。

福岡市の特別支援学校PTA連合会や地元企業に物品提供していただき「復興支援バザー」を行い、売上金の25,171円を義援金として仙台市PTA協議会に寄付いたしました。



伝えよう みんなの心  
心のきずな  
キャンペーン

日本PTA全国協議会の活動を受け、福岡市PTA協議会では「心のきずな61キャンペーン」守ろう子ども笑顔と未来」の募金活動を行っています。期間は平成24年から5年間で、津波で横倒しになったままの建物や1階部分が壊れている体育館などの写真を見て、現在子どもたちが置かれている状況を想像すると心が痛みます。「子どもたちの笑顔と未来を一日も早く取り戻してもらいたい」この想いを込めて活動いたします。あなたのお心を少しお寄せください。写真は、日佐中学校の体育大会においての募金活動です。各学校でもさまざまな取り組みがなされていることと思います。平成25年3月9日に各区PTA連合会において募金活動を行います。ご協力をよろしくお願いたします。



### 平成24年度 特別事業2 親子ふれあい事業 「OBM 王貞治 ベースボールミュージアム」に 親子2,500組御招待

福岡市内の小・中・特別支援学校から9,133組の応募があり、2,500組を抽選し、各学校を通じてチケットを送らせていただいております。

観覧された親子は「子どもは体験コーナーなどが楽しく、大人は王さんの軌跡を見て、子どもの頃の王選手が懐かしく思い出されました」と話されています。

まだ当選チケットをお持ちの方はお早めにお出かけください。

**訂正**

「ふゆ」111号で誤りがありました。

1面 誤 竹田美帆 (大楠小)  
正 竹田美帆 (高宮中)  
誤 吉川優子 (春吉小)  
正 吉川優子 (春住小)  
誤 中学校長会代表  
正 中学校長会  
誤 特別支援校長会代表  
正 特別支援学校校長会

お詫言ひして訂正させていただきます。

**編集後記**

「ふゆ」112号はいかがだったでしょうか。

「ふゆ」は年3回の発行です。学期は前年度の担当となっており、平成24年度の広報委員会としては、今号が初の発行となります。委員の中には、経験者も数名ありますが、ほとんどが初心者です。取材前日から緊張し、当日は無我夢中でメモを取り、撮影をし、記事を書き上げるのに悪戦苦闘しました。校正・編集作業では進退を繰り返して、本号に出来上がるまで、不安な日々が続きました。発行日が近づくと、つれて臨時編集会議も増え、疲労困憊のすえに発行にいたった今号です。

広報委員同は、今後も自己満足とならないよう、読者の皆様にとっての「ふゆ」をお届けすることを心がけてまいります。次号以降もよろしくお願ひいたします。

## 常置委員会 合同研修会

平成24年10月12日



福岡市PTA協議会常置委員会として「研修委員会」「広報委員会」「教育問題委員会」があります。

これまで各委員会ごとに研修会を行うことはありましたが、今年度初めて合同で開催することがなりました。

いじめ防止出前講座でも講演いただいた置鮎正則氏を講師に迎え、研修が行われました。

情報交換会では、委員会同士の連携、情報交換を深め、子どもたちの教育環境を向上させようと活発な意見交換が行われました。